

考える。

地域がん登録事業は、病院・大学・医師会員・行政など、関係の方々のご協力に支えられて継続できるものと信じている。ご協力くださる皆様の信頼と期待に応えられるよう、今後も努力していきたいと思う。

地域がん登録全国協議会 第 13 回総会研究会を終えて

辻 一郎

宮城県新生物レジストリー・東北大学大学院医学系研究科

昨年 9 月 3 日に仙台市・宮城県庁講堂で開催いたしました地域がん登録全国協議会第 13 回総会研究会をお世話させていただきました。当日は全国各地より多数の方々にご参加いただき心よりお礼申し上げます。

今回の研究会では「地域がん登録と疫学研究」をテーマとし、わが国の地域がん登録のデータがこれまでどのような形で疫学研究、健康政策や臨床ガイドラインに生かされてきたかを振り返るとともに、それをふまえて今後、地域がん登録事業とそれを活用した疫学研究、医療施策のさらなる充実をはかるための課題や展望に関して理解や議論を深めることを目的といたしました。

3 日午前のシンポジウムでは「大規模コホート研究と地域がん登録」と題し、現在国内で進められ、がん予防に関する新たな知見を明らかにしつつある大規模コホート研究について、その概要と地域がん登録データの活用方法を中心にお話しをいただきました。宮城県コホート（西野善一）、厚生労働省コホート（井上真奈美先生）、JACC Study（玉腰暁子先生）、三府県コホート（祖父江友孝先生）、広島長崎被爆者コホート（児玉和紀先生）についての各先生のご報告ならびにその後の討論より対象者のがん罹患状況の情報源としての地域がん登録の重要性が確認されました。

午後の特別講演では久道茂先生（東北大学名誉教授・宮城県病院事業管理者）より「宮城県におけるがん疫学研究とがん登録」についてご講演をいただきました。わが国で最初の地域がん登録である宮城新生物レジストリー設立の経緯とその後歩み、ならびに疫学研究、医療政策決定にこれまで果たしてきた貢献について、設立に尽くされた東北大学医学部公衆衛生学講座の初代教授である瀬木三雄先生のご業績とともにお話しがあり、さらに今後の地域がん登録のあるべ

き姿についてご提言をいただきました。

続く教育講演では大内憲明先生（東北大学大学院医学系研究科腫瘍外科学）、安富潔先生（慶応義塾大学大学院法務研究科・法学部）よりお話しをいただきました。大内先生からは、「乳がん検診ガイドライン作成の経緯とがん登録」の題で、マンモグラフィを原則とした検診指針作成に至るまでの過程とその際の地域がん登録データの貢献について臨床医として指針作成に携わった立場でご講演をいただきました。安富先生からは「個人情報保護とがん登録」のテーマで個人情報の概念、わが国の個人情報保護法制定の経緯およびその内容についてまとめていただいた後、がん登録事業と個人情報保護に関する現在の諸課題をふまえて今後のがん登録事業の方向性についてお話しがありました。

ポスター演題は 10 題の応募があり、吉田匡良先生の「長崎県における乳がんについて」が最優秀賞に選ばれました。

前日の実務者研修会では祖父江友孝先生（国立がんセンター）より「第 3 次対がん総合戦略研究事業と地域がん登録」、大島明先生（大阪府立成人病センター）より「地域がん登録個人情報保護ガイドライン」、金子聰先生（国立がんセンター）より「地域がん登録の標準項目と分類コード」、早田みどり先生（放射線影響研究所）より「多重がんの取り扱い」の各テーマでお話しをいただきました。地域がん登録事業が現在課題としている実務上の問題に対する対応や今後の基盤整備、精度向上の方向性につき理解を深める有意義な機会となりました。

地域がん登録が疫学研究に活用され、保健医療政策を決定する上での根拠を提供し社会に貢献することへの期待は近年ますます高まっていると考えます。今回の総会研究会が地域がん登録事業のさらなる発展に寄与することを願ってやみません。

第 14 回総会研究会（東京）のご案内

祖父江 友孝

国立がんセンターがん予防・検診研究センター情報研究部

この度、地域がん登録全国協議会の第 14 回総会研究会を担当させていただくことになりました。東京では初めての開催となります。不慣れではありますが、関係者一同、精一杯頑張りたいと思いますので、よろ